

雜 錄

●製鐵の保護

大河内正敏氏談

鐵に對する政策に關しては常に二様の觀察を要す、即ち一方我國の産業開發の上よりのみ之を觀たる場合には、内地の造船、鐵工、建築、土木其他の諸工業に要する鐵及鋼を出來得る限り廉價に供給するとは頗る緊要なる問題にして凡そ文明國程多量の鐵を要求するものなれば日本文化の發達を期せんとせば一片の鐵をも内地へ輸入を圖るの必要あり、之が爲には鐵の輸入關稅を撤廢して世界の最も廉價なる鐵及鋼の輸入の途を講ずべきこと何人も異論無き所なり、然れども製鐵業に關しては特に更に他の一面より考察せざるべからず、即ち戰爭なるものが此世界より煙滅し去らざるの事實あるが爲に國民は各年國費の大半を實に國防上の目的に支出し居る次第にして隨つて一朝有事の際に於て此軍備に相當する總ての軍需品殊に鐵及鋼を如何にして供給し得るやの問題は國家の安寧を保持する上に極めて重要問題たり、而して之が需要を充さんには諸外國の例に見るも又今回の大戰の經驗に徴するも日本の現在の状態に於ては如何に尠くとも毎年内地生産額の二倍乃至三倍の製鐵を必要とすることは明かにして我國現在の製鐵能力が有事

の日に到底此需要を充し能はざるは何人も否定し能はざる所なり、政府は此國防上の必要より特に我國現在の製鐵能力を維持するのみならず、更に今一段の製鐵能力の増加を圖らざる可らず、是に於て特に製鐵業に對し相當の保護政策を執らざる可らざる所以なるが、偕て我國の製鐵能力をして有事の日に際して遺憾なきものたらしめんとせば勢ひ現在の能力を増加せしむるの必要あり之に對し若しも製鐵業に對する特殊の保護を不可なりとせば國民は斷乎として軍備の縮少を執行するに如かず、國防計畫は依然今日の計畫を支持しながら一方製鐵業を保護せざるに於ては片輪の國防にして斯ては一朝有事の日に際し到底軍事上の全能力を發揮し得ざるに立到るべく、國民は結局無用なる軍備を有するととなり、政府は徒に無用の國費を亂費するの結果となるべきなり、左れば現在の軍備が國家の爲め必要缺く可らざるものなりとせば夫に相應する製鐵能力を如何にして助長養成すべきかの問題は決して閉却し能はざるなり斯かる目的を有する製鐵業保護政策に就きては種々なる手段方法もあるべきが、先づ直接、間接國民の負擔となるべき製鐵獎勵金制度に依るか、又は關稅引上策の何れかに依らざる可らざるべし而して其保護の目的が有事の際に於て内地、朝鮮其他安全に鐵の供給を受け得る地方に於て製鐵業を發達せしめ以て鐵の自給自足を圖るにありとせば平事に於ては尙更に完全に自給自足方法の確立を要するは謂ふ

までもなし、殊に製鐵業の如きは他の工業と異り咄嗟の需要に應じて其設備工場等を急激に擴張し得るものに非ざれば、平時に於て自給自足可能の程度に達し居らざる可らざるは自明の理といふべし、而して保護政策上問題になるべきは關稅政策に依らずして自由に外國の鐵を輸入する一方に於て生産獎勵金を出して保護政策を執るとは其處に全く矛盾ありと謂はざる可らず、平時に於て外國より鐵及鋼の供給を受くるとが既に自給自足の主義と全く兩立せざるに關稅を引下げ若しくは据置かんとする如きは全然無意味なりとす、予は我國に於ては寧ろ此際關稅なる要塞を設けて鐵及び鋼の輸入を拒絶し以て内地製鐵保護自給自足の主義を確立するの要ありと信ずる者なり、噸當り生産獎勵金の如きは實施の曉非常なる不公平を生ずることあり、又從來嘗て此政策に依りて成功したるものなく加奈陀の如き現に此の政策に失敗して關稅政策に變更せるが如き例を見るも到頭失敗に終るべきは明かなり、故に予は該獎勵金制度には反對せざるを得ず。云々

●製鐵保護案の内容 財經委員答申案

製鐵事業に關する根本方策に就ては過般財政經濟調查會の製鐵造船特別委員會に於て答申案の起草成り目下印刷中である、多分本春早々財政經濟調查會の總會を開いて之を附議する筈であるが仄聞する處によると同案の骨子は大體三箇の要素から成り立つて居る即ち第一は事業の合同であ

つて此目的を達成する爲に各製鐵所は漸次合同又は經營委託を爲し資本能力の集中を圖ると共に原料の取得生産品の配分等を共同的にする目的からシンデケートを組織する必要がある云ふのだが此點に關しては政府としては之を強制する譯には行かないのであるから結局は當業者の利益打算から可能の範圍に於て行はれるに過ぎない結果となる、而して猶ほ純然たる保護又は獎勵策である保護策の尤なるものは關稅の保護である即ち銑鐵には從價一割、鋼及鋼材には從價一割五分の輸入税を課し協定稅率の適用ある銑鐵鋼材に就ては其協定條約の存續する期間其製造者に對し改正稅額との差額に相當する金額を補助金として交附せしむるものである、製鐵原料並に製品の海上及陸上輸送に對しては政府は必要と認むる場合相當の保護を與ふる事、更に電氣製鐵業に對しては保護の必要上大正六年公布の製鐵業法第四條を改正して低燐銑鐵等と同一の保護を與ふる事等である、獎勵策としては製鐵原料の供給、保護、技術の發達促進等が主なるものである、而して製鐵業の保護獎勵と相俟つて必要なるは鐵の最も大なる消費者として而も今や甚だしく窮境に陥つてゐる造船保護策であつて此點に就ては造船材料に使用する鋼材には輸入税を免除するか輸入税に該當する補助金を交付する事である勿論特別委員會作成の答申案が總會に於て決議通過されるか何うかは疑問であるが今日迄の情勢から案ずると大體字句の修正位で通過す

るだらうとの事である、尙政府としては關稅定率法の改正や製鐵業獎勵法の改正案はなるべく速に次期議會に提出する意氣込みである云ふ其處で關稅保護の結果鐵の消費者に影響を與ふる事は勿論で造船業に對しても前者の如き保護策を講ずるも他の大消費者である所の機械工業に與ふる影響は蓋し少からざるものがあらう、目下の所では機械工業は概して餘り大きな不況を被つては居ない大抵の工場では本年二月頃までの註文品を抱いて居ると云ふやうな事であるが其後は如何であるか一寸見當が付かない様子で銑鐵は現在は協定稅率の適用がある故に假令關稅の改正となるも差し當り需要者には影響を與へないのであるが鋼、鋼材の使用者は相當の打撃を被る事は明かである此點を顧慮しなかつたのは特別委員會千慮の一失であつたと云つても過言ではあるまい、愈總會開會の曉は此點に關し或は議論沸騰し或は機械工業の保護と云ふやうな點も加味された決議が出来るかも知れぬと觀測されて居る。

●工業整理方策

山岡順太郎氏談

日露戰後の恐慌不況と趣を異にせる昨年の財界打撃は單に資本階級のみならず總ての階級を通じて深甚なるものあればそれ丈其恢復の容易ならざるを見る、然るに一方當然到達せざるべからざる整理時代の來るを豫想しながら好景氣に馴致せられし迷夢尙覺めず或は正貨の増加、郵貯の激増等を云爲して財界の恢復遠からずと期待するものもある

が此樂觀にして是ならば財界の幸之に過ぎざるべきも四圍の事情より見て果して斯の如くなるや否やは大なる疑問とせざるを得ず、先づ我生産工業特に製鐵工業に就ての前途をトせん、我國の資本經營に係る銑鐵生産一ヶ年の能力は民間五十萬噸、政府三十五萬噸、計八十五萬噸、鋼鐵民間約十萬噸、政府四十萬噸、計五十萬噸を有す、而して現在生産能率は政府の夫を除き二分の一に減少し、銑鐵約二十五萬噸なるが鋼鐵に至りては微々振はず殆んど擧ぐるに足らざるなり又需要狀態如何と云ふに戰時好況時代に於ける最高は鋼鐵百萬噸なりしが、現在は其二割五分乃至三割に相當する約三十萬噸に激減し市場價格亦需要の減退と同時に低下し生産費を切込む事一噸につき四十圓乃至六十圓の甚だしきに至れり、殊に好況時代に於ける巨額の鋼鐵輸入品及内地生産銑鐵は多く貯藏せられ消化せられず、加之十萬噸に垂んとする高價約定輸入未着鋼鐵の存在等の事情に壓迫せられ生産の繼續殆ど不可能の狀態を示し居れり需要減退、滯貨の脅威並に生産原價の市價を超過する事等は幼稚なる我製鐵工業をして益々不振に陥らしめんとしつゝある者なるが海外各國も亦直接戰爭の慘禍を蒙りたる丈に打撃甚大なるものあり、米國に於てすら之等の事情に支配せられて諸工業不振に陥り製鐵工業の如きも今や九年上半期末の一次的強調より一轉して暴落を重ね來りたりと雖も歐洲各國は未だ之を原料品として輸入し得るの採算の域

に達せざるのみならず之に先んじてなすべき原料品消化の途なきを奈何？の状態にありされば海外事情にも追従せざるを得ざる我國鐵工業界は海外諸國の恢復を見て後初めて愁眉を開き得べく少くとも現存滯貨の消化を見たる後に平準の域に歸り得べき乎、這は單に製鐵工業に於てのみならず恐らく各種生産工業に於て然りと論斷するも誤りなかるべし、然らば窮達せる生産工業整理の應急策否根本策如何と云へば即ち滯貨の消化を計り輸出を促進せしめ生産原費を低廉ならしめて世界的不景氣に對する抵抗力を強固ならしむる事是なりとす、而して之が實行方法は素より多々あるべきも先づ大體に於て生産組織の大規模生産費の低下勞銀引下株主所望の削減等を以て主なるものとなすべく又是等の目的を達成するの第一手段は實に金利を低廉ならしむる事是也、金利低廉にして容易く大資の鍾まり、利潤薄くして金利との權衡を得べく、其權衡を得ば製品自ら低廉となるなり、而して一般株主亦配當の薄少に對して苦情を言はざるべく、斯くして目的の二三は極めて容易に達し得らる、筈なり、然も右の中最も至難なるは勞銀引下の一事なるが此事たる國民生活と重大の關係があるものなれば輕卒匆急に之を行ふを得ず其引下は生活費の低減に順ふべく又生活費の低減は物價政策其他の方策に據らざるべからず然も克く之を敢てし得る者は果して誰ぞや要するに國民は堅禪一番諸般の整理を適當に行ひ堅忍持久舉措を誤るなく工

業の恢復發達に努力せざる可からず。

●支那の製鐵と石炭

西野惠之助氏視察談

西野東洋製鐵會社事務は往復三週間の時日を費して支那桃沖大冶兩鐵鑛及大冶、漢陽兩製鐵所の視察を遂げ、それより漢口を経て北京に出て天津及清南を遊歴し山東省川炭坑の視察をして此程歸來せしが其歸來談に曰く

今回支那旅行は本邦に於ける鐵の生産費が鑛石及石炭代の八割五分、勞銀其他諸經費一割五分と云ふ有様にて其重要原料産地狀況を多少知り置く必要を感じたからで別に大した意味はない。大冶、桃沖の兩鐵鑛は實に立派な物で兩鐵鑛共に支那人經營で産鑛の大部分は日本に供給してゐる、鑛石の生産費は楊子江積迄を含み噸に付二圓乃至四圓を要し本邦迄の海運賃五圓乃至七圓を唱えてゐるから噸十圓内外で我手に入る様になつてゐる。支那人も近時國內の産業に大いに注意し始め大冶、桃沖の如き以前に採掘權を得たもの以外の鐵鑛は悉く國有として容易に採掘權を許さず極力鑛石の外國輸出防止に努むると共に支那内地に於ける製鐵業の發展を大に奨勵し以て鐵鋼を製出して國外に出さうといふ方針を取つてゐる、近頃新に漢口に百噸熔鑛爐を据つけ製鐵を開始せるものがある、漢冶萍煤鐵公司以目下大冶に据付中の四百噸熔鑛爐二基は來春竣工の豫定である、右の外に目下創立計畫中のものは秦皇島に開鑛鑛務局經營の下に百五十噸熔鑛爐二基の製鐵所を南京浦口に於ける民

間の大規模製鐵所に對する鐵鑛は大冶鐵鑛隣接地象鼻山鐵鑛のものを石炭は山東省縣懌産を採ることになつてゐる。支那に於ける國內の鐵の需要は殆ど皆無の状態であるに拘はず斯くの如く盛んに製鐵事業を起す所以のものは支那に原料を仰いでゐる我日本を唯一の目的としてどしどし製品を輸出したら原料で輸出するよりずっと利益あることに氣がついたからで、さてこそ製鐵事業を奨勵し鑛石の國外輸出防止に努めて居る次第である、紡績業の如く自國産を自國內で消費するやうな按排には行くまい、製鐵の目的が外國相手であるから甚だ六ヶ敷い、支那の製鐵がドン／＼日本に這入る様になつたら其時は關稅で調節を計り其一部は生品で受け入れ一部は鑛石で受け取る様にしたら本邦の製鐵事業には何等の影響はあるまい。次に石炭は直隸省の開峰(開平炭)山西省の井徑及び六河橋、山東省の縣及び淄川等の主なる炭田で各炭山の埋藏量の大きると殆ど無盡減を呈してゐる、生産品は各炭坑毎に其れを異にし商略上何れも嚴密を守り居るを以て容易に知ることができなかつたが大體坑口迄の石炭生産噸あたり二圓乃至五圓位で之に運搬其他の諸掛を加へ本邦着十圓内外の見當である。今回の旅行は殆ど支那樞要の地ばかりであつたが日本人は至る所豫想外の活躍發展をなし頗る心強く感じた、目下盛んになつてゐる排日問題の如きは日本民族が漸次文化的發展を遂げる上に於ける一つの試練に外ならぬので日本人は此際飽

く迄自省して飽く迄緊張の態度を持し此苦しき試練に打ち勝ちて他日雄雌を期することが最も肝要と痛感した云々。

●佛蘭西の製鐵事業 佛蘭西が獨逸から蹂躪せられた處は慘澹たるもので、石炭産地として著聞したノール及び、ド、カレ、兩縣の復舊には數年を要すると推定せられて居り製鐵事業の中心地であつた北部地方が開戦前の状態に還る時期は豫想し難いとせられて居るので佛國の製鐵業が不振に始終すべきは誰にも豫想せらるゝ處であつたのであるが、最近に於て記者が接受し得た材料に依れば事實は決して豫想の如きものでなく銳意に佛蘭西の上下が再建の大事業に努力した結果は著しく美果を結び、問題の製鐵業なども繁榮を象徴するの數字を計上して居る。即ち事實を具體的に指示するならば、一九二〇年一月より同九月に至る銑鐵の産出額は左表の如きものである。

一九二〇年銑鐵産出額

一月	一九五、一一六	六月	二七〇、七五六
二月	二〇五、二二七	七月	二九九、九八〇
三月	一九八、四四五	八月	三三一、二九三
四月	一七九、四六四	九月	三四七、四五一
五月	二二三、五一〇		

即ち三月より四月に掛け坑夫ストライキの打撃を受けて不振を示したが、五月に入つて躍進し、八月には三十萬噸を突破し、九月には三十四萬七千四百五十一噸と云ふレコー

ドを鑲刻するに至つた、これを一九一九年の平均平額十萬七千六百六十七噸に對照すれば著しい進展であり、開戦前の一九一三年に於ける平均月産額四十二萬七千六百六十七噸に比較するも、決して同日にして談ずることの出来ないもので、前途大に樂觀するに足りるのである。然らば鋼鐵、鋼塊及び鑄物は如何であつたかこれも同期に於ける産額は左表の如きものであつた。

一九二〇年鋼鐵産出額

一月	一九五、四〇四 ^噸	六月	二四四、二六七 ^噸
二月	一九四、〇六七	七月	二五四、七二五
三月	一八八、〇八一	八月	二七六、五九五
四月	一八六、〇二五	九月	二九九、八七五
五月	一七二、一五五		

これを一九一九年の平均月産額十四萬八千三百三十四噸に對照すれば頗る優越を示し一九一三年の三十八萬四千四百十六噸に比較すれば及ばないのであるが、各月に於ける進歩の跡より推定する時は鋼鐵の産出額も亦以て前途を大に樂觀するも不可なしてあらう、即ち今少しく努力し、石炭にして十二分に供給せらるれば佛國は英、米に亞ぐ優秀の製鐵國となり、戦前に於ける獨逸の地歩を占むること困難でないことが窺はれるのである、斯う云ふやうに最近に於ける佛國の製鐵業は進歩しつつあるのであるが、既に周知の如くヴェルサイユ條約に依つて佛國は獨逸からアルサス

する無盡藏の鐵鑛は同國の製鐵業に一段の強味を加へるものとせられ、年々少くとも四千二百萬噸の鐵鑛を採掘してその中から佛國の製鐵業に使用した殘部の一千七百萬噸を鐵鑛の儘に輸出し、更に鋼鐵として二百萬噸を佛蘭西は、ア、ロ二州から輸出し得るであらうと推定せられてをる、勿論、この推定が何時になつて實現せられるかは疑問であるが、必ず左程に遠くない將來に於て實現せらるべきは信ぜられることである、獨逸は戦前から休戦の成立した年までに左表の如き鐵鑛をア、ロ二州から採掘したのである。

ア、ロ二州鐵鑛採掘高

一九一三年	一一、〇〇〇、〇〇〇 ^噸
一九一四年	一四、〇〇〇、〇〇〇
一九一五年	一〇、〇〇〇、〇〇〇
一九一六年	一三、〇〇〇、〇〇〇
一九一七年	一三、〇〇〇、〇〇〇
一九一八年	一〇、〇〇〇、〇〇〇

右表に前記の推定額を對照すれば頗る前途の遠いことが想察せられるのであるが、この富源を掌裡に收めた佛國の得意は思ふべきである、然り而して獨逸は開戦前の一九一三年ア、ロ二州から銑鐵三百八十萬九千噸、鋼塊及び鑄物二百二十五萬噸を産出したが一九一九年には銑塊及び鑄物二百二十萬四千噸が産出せられたのである、この鐵鑛あり、且豊富の石炭（一九一三年ア、ロ二州出炭量三百七十萬噸）をも領有するところになつたのであるが、これに伴ふ勞働と

製鐵用の石炭を得ることが出来るかは頗る疑問としなければならぬ、ザール盆地の石炭は製鐵用には不向である、兎に角佛蘭西が一九二〇年前半期（一月より六月まで）に輸出した鐵鑛は左表の如きものであつた。

一九二〇年前半期鐵鑛輸出表

合計	一、九七三、四一三
内 譯	
獨 逸	六七三、〇二六
白 耳 義	六〇四、一二九
ルクセンブルグその他	六九六、二五八

この數字を前記のA、ロニ州より輸出せらるべしとする鐵鑛の推定高に比較すれば一割餘に相當するのみである、何れにしても佛國の製鐵業の前途は最近に於ける状態より考へて樂觀し得らるべきものであり、又外電が佛國のルール炭田に大なる野心を抱きつゝあるを指摘せることは頗る興味を感ぜられるのである。

●英國産鐵 英國に於ける坑夫ストライキが昨年十月

十六日の夜半に勃發して同二十三日に至るまで繼續してこの間殆ど英國内に一噸の石炭さへ採掘を見なかつた事實に就ては世人の尙牢記してをることを確信するのであるが、この坑夫ストライキが銳意戦後の恢復に努めつつあつた英國の各方面に慘澹たる打撃を與へたことは稽へられるものであり、殊に鐵鋼の製造業が影響を蒙つたことの並々でなかつたが最近に到着した雜誌に依れば、十月に於ける坑夫ス

トライキの打撃が甚だ顯著なるものであつて曾ては世界に於ける一位の製鐵國であり米國及び獨逸も及ばなかつた英國であるが、戦前の一九一三年には銑鐵九百七萬二千噸、鋼塊及鑄物五百五十九萬一千噸を産出したのみで、米國に及ばず獨逸とも比較し能はず世界に於ける三位の製鐵國に降下してしまつた。處が休戦の成立した一九一八年には銑鐵一千二十六萬噸鋼塊及び鑄物七百六十六萬四千噸を産出して數量に於て懸隔があるにしても米國に次ぐ世界に於ける二位の製鐵國となつた。併し翌年一九一九年には銑鐵七百三十七萬噸、鋼塊及鑄物七百八十七萬噸を産出するに過ぎなかつた。即ち鋼塊のみは前年に比較して少しく好況であつたが銑鐵の産出額は對照することが出来ない程貧弱なるものであり、前途に一の暗翳を投ぜられたのである、然るに本年に入つて銑鐵の産出額が俄然増加したのみでなく鋼塊及び鑄物の製造高も増嵩を示すにいたつた。銑鐵と鋼塊との各別に就て檢覈するならば一九一九年及び一九二〇年に於ける銑鐵の月産額は大體に於て左表の如きものであつたのである。

銑鐵月別の製造高

月 別	一九二〇年	一九一九年
一 月	六六五、〇〇〇	六六四、〇〇〇
二 月	六四五、〇〇〇	六二五、〇〇〇
三 月	六九九、〇〇〇	六八四、〇〇〇
四 月	六七一、〇〇〇	五六三、〇〇〇

五月	七三九、〇〇〇	六六二、〇〇〇
六月	七二六、〇〇〇	六一二、〇〇〇
七月	七五〇、六〇〇	六六〇、〇〇〇
八月	七五二、四〇〇	五二一、〇〇〇
九月	七四一、〇〇〇	五七四、〇〇〇
十月	五三三、二〇〇	四六五、〇〇〇

右表の明かに指示してをるやうに一九二〇年九月に至るまでは前年の各月に比して顯著なる増加を示し、一九一九年に於ける産額のレコードが三月の六十八萬四千噸であつたのに對照し、一九二〇年は坑夫ストライキの勃發しなかつた九月までに多少の消長があつたにしても、五月以降は七十萬噸臺を保持して八月には七十五萬二千四百噸といふ休戦以來のレコードを示したのであるが、十月には五十三萬三千二百噸といふ本年中の最低レコードを残すに至つた。これ即ち坑夫ストライキの影響があつて、その打撃が製鐵業より以外にも亦少くなかつたであらうと云ふことが明白に想像せられるのである。製鐵業が坑夫ストライキのために受けた打撃が少くなかつたことは前述の如きものであるが鋼塊及鑄物の製造高は如何であつたか、ここにも亦容易ならぬ影響のあつたことは改めて説明を加へるの必要もないのであるが、一九二〇年と一九一九年に於ける月別の産出額を比較すれば實に左表の如きものである。

鋼塊月別の製造高

月別	一九二〇年	一九一九年
一月	七五四、〇〇〇	七二八、〇〇〇

二月	七九八、〇〇〇	七三四、〇〇〇
三月	八四〇、〇〇〇	七五八、〇〇〇
四月	七九三、〇〇〇	七五五、〇〇〇
五月	八四六、〇〇〇	六三一、〇〇〇
六月	八四五、〇〇〇	六一八、〇〇〇
七月	七八九、〇〇〇	四七四、〇〇〇
八月	七〇七、〇〇〇	七一八、〇〇〇
九月	八八三、九〇〇	四三三、〇〇〇
十月	五四四、三〇〇	六九三、〇〇〇

右表が最も雄辯に語つてゐるやうに、一九二〇年の九月までの鋼産額は前年に比較して著しく優越を示し九月に於ては八十八萬三千九百噸と云ふ休戦以來のレコードを残してゐるに拘らず、十月に於ける坑夫ストライキは此の盛況を遂に頓挫せしめて五十四萬四千三百噸と云ふ貧弱なる記録を残さしむることになつた。一九二〇年に於ける銑鐵の産出額は一九一八年のレコードを凌駕し鋼塊及び鑄物の製出高は一九一三年のそれを突破するであらうと考へられてゐたが、坑夫ストライキは此の豫期を痛ましくも裏切つて、前述の如く十月は貧弱なる記録を残したのである。

●東北大學鐵鋼研究所 住友の寄附二十五萬圓を基

金として豫て建造中なりし東北大學の鐵鋼研究所も昨年末にて一切の工事を了したるを以て本月中鐵鋼研究に使用する諸機械の据ゑ付を爲し移轉する見込の由なるが新研究所の構造は總煉瓦造り三階立の美麗なる建物にて規模餘り大なるものには非ざれども高さ三階立の屋上は所員の運動場

散歩場に充つべき様平坦に作られ其廣さから見て優にテニスコート位は設け得べしとのことにて稀に見る斬新なる建物なるが勿論鐵鋼研究所内に設備さるゝ諸機械類は總て斯界の權威本多博士の考察に基き最新の理學を應用して作り上げられたるものなるを以て開所の曉は世界的に異彩を放つに至るべきが大學にては開所以後民間の事業發展のため一部を開放するに至るやも知れず目下其方法考察中の由に聞く。

●鋼焼入講習終了

文部省では昨年十一月東北大學教授本多光太郎博士を講師とし東京高等工業學校に於て第一回鋼焼入法講習會を開きたる處志願者數豫定人員の約五倍の多數に達し同省主催講習會のレコードを破り非常の盛況を呈し我邦鋼工業に對し多大の裨益を與へたるが其後各方面の希望者多數なるに鑑み去る七日より四日間に互り同校に於て同第二回講習會を開き講習員五百餘名に達し前同以上の好成績を收め定日終了の上夫れ々々終了證書を授與せるが、なほ同會は再度の好成績と今回に洩れたる多數希望者の爲め來四月上旬大阪市に於て第三回を催し同業者に對し便宜を與ふる由にて爾後は東北大學直接の事業とし必要に應じて各地に開催の筈なりと。

●大冶鐵材値上拒絶

八幡製鐵所に對し銑鐵其他の用材を供給しつゝある支那大冶漢冶萍公司より最近左の如く價格引上の要求を爲し來りたり。

同公司供給の銑鐵は其契約價格一噸二十六圓、鐵量十萬噸なるも戰時鐵價の暴騰に伴ひ一昨年の如き時價三百圓を唱ふるに至り漢冶萍公司より價格の引上げを要求し來り表面の契約は依然二十六圓とし事實の取引價格は百餘圓に引上げ昨年鐵價低落するに及び九十圓今年に於ては六十五圓に取引し來りたり、同公司は最近再び價格を一噸九十圓に引上げ方を要求し來ると共に戰時我國より契約數量十萬噸全額供給の要求を爲すに對し漸く五六萬噸の供給を爲せるに反し鐵價暴落の今日に至りて前記の如く價格を引上げると共に契約數量全部引取り方を要求せり。

現行取引實價六十五圓に運賃其他の諸雜費を合算する時は製鐵所着七十九圓に達し時價八十圓と大差無き状態なれば今支那の要求通り九十圓に値上げする時は事實製鐵所に於て支拂ふ金額一噸に付百二三圓に達し時價に比し實に二十餘圓の高價となり目下に於ても鐵價の激落に依り同所の賣上げ價格百五十圓に對し生産費二百十五圓を要するが如き悲境に在る製鐵所として到底堪ふる所に非ざるのみか同所に於ける停滯品約七萬噸に達し尙大藏省調査によるも民間製鐵所の停滯數二十萬噸を示し各方面より民間停滯品の買上げ要求を見る場合なれば出來る限り民間停滯品買上げの必要あり而も之が買上げは漢冶萍よりの供給に比し低廉なる等各種の事情は價格引上げに應じ難きより山本農相、白仁製鐵所長官、田中次官、崎川鑛山局長等之が對策に付

連日協議を重ね居り、結局値上拒絶の外無く近日拒絶の通知を發すべしと云へり。

因に我國の製鐵業は最近三箇年に於て著るしく發達し目下は鐵價暴落に依り各事業家共其生産額を約四分の一に減じ居れるも全生産能力は全國製鐵所を合し約百七十萬噸に達し漸く自給自足の域に達したりと。

●製鐵所の鐵鑛契約繼續 八幡製鐵所と漢冶萍煤

鐵公司との間に年來特約されて居た製鐵原鑛の契約期限が本年にて満期となるので兩者間に之が繼續に就き種々折衝中であつたが漢冶萍の申出は随分高價なので製鐵所では算盤が合はずさりとて之に應ぜざらんか我國製鐵事業に一頓挫を來すと云ふので白仁長官は農商務省と打合せの爲上京漢冶萍側も上京交渉中であつたが二ヶ月掛りて漸く兩者の協定が圓滿に整ひ之が交渉委員として來縣中であつた漢冶萍顧問笠原實太郎及總經理侍階復氏等一行は廿四日午後四時門司出帆の山城丸にて上海に歸つた。

●製鐵所鋼材値下 八幡製鐵所が突然一月八日附で

在庫品七萬噸の鐵を破格の廉價で市場に賣出す事を發表した而も新しく制定した價格は在來の値段よりは一噸に就き三十圓方引下げたもので即ち新價格に依ると

丸棒百五十圓◆角棒百六十圓◆平棒百七十圓◆厚板百五

十圓◆薄板三百二十圓◆山型二百二十圓◆工型二百二十

といふ殆ど現在の市價の小賣値段に均しい廉價である、此の製鐵所の廉賣が只さへ不景氣の市場に對して什んな影響を與へるであらうか、三井物産金物部支部員は語る。

製鐵所が在庫品の廉賣を發表した事は獨逸品が安いか米國が不況だと云つてゐる矢先で益々市場の前途を暗澹たらしめるものである、元來製鐵所の製品の大部は軍器其他官廳の注文品であるが夫でも一箇月に約二千噸ほどの製品が過剰になり、それが一般市場に出るのだが市場が不景氣のために全部製鐵所の在庫品となるのである、七萬噸といふのは少し多ほ過ぎると思ふ、私の考へては約五萬噸と思つてゐる、何分製鐵所が發表した價格が現在の市場の殆ど小賣値に均しい廉價で自然影響する處が多い、勿論長官として豫て同業者に對して廉賣の相談があつたが其時は賣つて貰ふよりは今暫らく待つてゐて貰つた方が好いといふので其の考へて居た、故に廉賣をするにしても三月頃に發表する事と思つてゐたのに突然の事で聊か不意打ちの感がある併し新價が安いからとて賣れるものでない、若し今度のを買手がありとすればソレは造船の關係筋の人が外國にても注文しよやうと思つてゐた人ぐらゐることと思ふ、現在の市場は財界の不況と共に根底に買氣がないのだから製鐵所としても賣れると思ふかも知れぬが却つて市場の前途を悲觀せしめるばかりで賣れ行きが悪いと思ふ。

●製鐵業前途 八幡製鐵所が市場の鐵價に對抗し切れ

ず遂に在庫鐵の廉賣を發表したのでさらでだに不況のドン底に沈んで居る製鐵界は更に大きな渦巻を起して市場は又復混亂を繰返す様になつた製鐵所が標準價格の大値下げを發表するに至つたのは本年に入つてからは必ず鐵價が暴騰するものと見越して居たのに實際は豫想に反して殊に獨逸や白耳義が競争的に値下げを行つたので英國の市場が總崩れに崩れ一噸百六七十圓と云ふ相場を示した、之れがため延いて米國の製鐵業に大影響を及して鐵價が奔落したので是等の報が内地に傳はつた結果、我國の鐵價の復活は殆ど豫想し難くなつたので遂に大英斷を試むるに至つたのである、之れに就き唯單に日本の相場に左右されたのでなく世界の趨勢に押された結果であると當局者は語つて居る。

事情斯くの如く製鐵市場は全世界を通じて殆ど混沌たる状態にあり、何時鐵價の安定時期が到達するやも全く不明で値下げの結果製鐵所の製品中ベース、厚板、バー、丸棒の如きは既に製産費が製品價格に喰込んで居て辛うじて多少の利益を見つゝあるのはケープス、レールの二種類と云ふ状態になつて來たので製鐵所では官廳の注文品のみの製造に力むる事とし一箇月三萬噸づつあつた製産量を約二萬四五千噸に減じ而して平均一萬八千噸の官廳納入品の殘餘は賣行がないため貯藏する傍差支ない工場は現在の三交代制を二交代制に變更し縮小を圖つて居るが在庫鐵は既に七萬噸以上に上り貯藏場所にさへ窮して居る、之に就き同所

當局者は製鐵所の前途を悲觀して語る。

今度の鐵價の下落は獨逸及び白耳が競争的に値下げを斷行したのが原因ですが兩國が戰時中蓄積して居たストックを一時投賣りのため値下げを行つたものか、若くは世界の市場權を獲得の目的に出でて將來製品に對しても同一方法を取るかと云ふ事が大問題だ、英米も頻りに兩國の内情を探つて居るやうだが今日迄は不明である、我國の製鐵界は戰前の如く米國よりも歐洲大陸により多く左右される傾向があるので若しも後者であるとすれば折角發展し來つた我國の製鐵界は一朝にして潰滅さるべく、製鐵所は大縮小をして唯單に軍器のみの工場となるか休業の氣運に陥る事となるであらう。

●英鐵市況不良 倫敦發、最近倫敦の鐵及び鋼鐵市況は益々不良にて製鐵及び製鐵所中には遠からず値下げを斷行すべくクリーブランド鑄物用銑鐵の輸出制限は撤廢され、併し差當り期近物にて輸出不可能なるは僅少である、蘇格蘭造船用鋼板の名目相場は一噸に付二十八磅、冠印鋼棒は二十七磅十志である、シエフィールドの鋼鐵市況は益々不振を來たした、之れは海外よりの注文取消が多い爲めである。(一噸に付)

冠印鋼棒二十八磅二十志、アシッド鋼片廿五磅十乃至廿六志、ソフトペーシク鋼片廿磅。

●英國鐵輸出額 倫敦發市内某所人電に依れば英國の

十一月中に於ける日本向け鐵類輸出額は左の如し。

△銑鐵五百噸△鐵棒百十五噸△鋼鐵千三百噸△鋼鐵板千九百五十噸△亞鉛引鐵板千五百噸△鉾力四百噸△紡織機千五百六十噸。

●米鋼鐵王曰く 最近紐育發電、鋼鐵王アルバート、ゲリー氏語りて曰く、目下米國に存在する經濟上の不景氣は、自然的に且つ必要なる整理の結果にして。整理の完成するまでは、其の他の方面に一切の好望を有するに拘はらず、不景氣の發生を豫期せざるを得ざるべし、但余は前途に關しては期待と自信とあり、多數の人々に無爲にして何物かを得んとする氣風を馴致せる現在の罪惡、革命、爭論の存在する世界狀態、並に自己の財を増殖せしめん爲に不正、乃至不合理に財力を使用してゐる戰時成金は非難に値す云々。

●紐育鐵物入荷數量 市内某當業者の米國に對する輸入先約定鐵物大阪東京各一萬噸は昨今續々入荷しつつあり、右合計一萬噸は全部輸入あるべしと言ふが、斯くして對米約定品は略殘餘なきに至るべしと言ふ、因に該品は主として丸棒及び普通板物にて横濱揚げ十貫目八圓見當なるが尙外に多少の釘及び平板を含むと。

●古鐵條網輸入 一月十日敦賀入港の鳳山丸で浦鹽から二百噸の古鐵條網が輸入された、是は曾て我國から露國の歐洲戰線に用ふる爲に賣付けたものだから革命戰爭の爲其

儘浦鹽稅關署に雨晒となつて居たのを今回臨時政府が硝石二萬八千噸の入札に次いで此鐵條網を拂下げるとなり、トルサージなる米國人が拂下を受けたもので内地の需要に當てらるゝものであると。

●鐵類在荷減少 十二月十五日現在の阪神兩地主要倉庫に於ける鐵類の在荷高は十七萬四千八百噸にして、前月三十日現在に比し大阪に於て千五百餘噸、神戸に於て九千九百餘噸を減少した其内容左の如し。(單位噸)

計	大阪		神戸	
	鐵	鋼	鐵	鋼
棒	一八、四〇〇	一三、〇〇〇	一四、八〇〇	六、七〇〇
型	一四、八〇〇	一四、四〇〇	七、八〇〇	四、六〇〇
厚板	一三、六〇〇	二二、四〇〇	七、八〇〇	二、一〇〇
薄板	四九、〇〇〇	二二、四〇〇	四九、〇〇〇	二二、四〇〇
銑	一〇三、七〇〇	七二、一〇〇	一〇三、七〇〇	七二、一〇〇

こは必要口の買附の結果で問屋筋並に需要者の手持激減の折柄とて漸次減少さるべきも、海外市場の恢復を見ぬ限りは容易に價格の昂騰は望まれず、棒鐵百三十五圓、銑八十圓所に推移するの外なからう。

●鐵物相場大勢 鐵物類は昨年三月以降の財界不況に依り需要減退せるに拘らず既約外注文品の輸入増加したる爲め七八月頃には内地鋼鐵材約三十萬噸、銑鐵約三十萬噸合計六十萬噸見當の在荷と算せらるゝに至り一般に期待せられし九、十月の金物需要時期も差したる反撥を現す事なく却つて漸落歩調を辿るに至りしを以て一般問屋筋は之が

市況恢復策に苦心し東京に於て陸會及釘明會等を組織し不賣同盟の協定を爲せるが是畢竟賣り得ざる物を賣らざるに止まり何等大勢を挽回す可き効果なく遂に年末には鋼鐵棒四五圓見當の安値を唱へ夫れさへ商談皆無の狀勢なりき、斯くて一昨年之の鋼鐵材輸入高は約七十二萬噸、内地生産高約六十萬噸、銑鐵輸入高三十五萬噸、内地生産六十七萬噸を算したるも昨年に入り鋼鐵の輸入高約七十五萬噸、内地生産約三十萬噸見當なりしを以て結局内地需要高として約七十萬噸見當なりしを想像し得らるゝ次第なるに依り即ち一ヶ月間の需要高は此數字に基き約六萬噸見當と見るを得べく左れば今年に持越したる鋼鐵材三十五萬噸は先づ今年上半期中の需要を充すに足らんか、一方内地生産高が如何に激減す可しとするも尙三十五萬噸見當を下る事なきが如くなれば一般財界が此後顯著なる改善を見ざる限り當分輸入商談は減少するものと觀測せらる。

翻つて歐米方面を見るに先づ歐洲の如きは戰前千九百十三年歐洲全體にて四千二百萬噸の生産ありたるもの、戰後最初の年たる一昨年に於て千九百萬噸に過ぎざりしが、其後英國、獨逸及白耳義の諸國漸次秩序恢復し來り生産能力漸次増加しつゝあるを以て昨年には二千萬噸以上に上り、今年は更に生産力を恢復し來るものゝ如し、斯く生産増加と共に最近獨、白方面より安値賣出を行ふに至りたるに依

り之れに對抗する爲め著しく鐵の値段を引下ぐるの止むなきに至り尤も需要激減に因り工場を閉鎖し又現に作業中の工場亦事業繼續の困難を感ずるもの多々ある實狀を呈し、ありと雖も、尙大勢に於て其生産能力は昨年比し増加するも減少する事無からん、更に米國に於ては一昨年之の鋼鐵生産高三千四百萬噸なりしが昨年は五六百萬噸を増加して約四千萬噸見當に達し、而かも需要は世界的に減少して十月上旬に獨立製造會社の主なるものは相次いで一昨年三月協定せる産業局の値段の土臺に引下げ、又ユ、エス社も絶對必要あらざる限り其賣値を引下げずと聲明し居れりと雖も大勢としては今年度に入り漸次引下ぐるの已むなきに立ち至るならんか。

斯く歐米共に生産能力増加し一方需要は世界的に減少し居るを以て其製品販路に於て勢ひ激烈なる競争を惹き起すを免れず、殊に米國として戰時中異常の膨脹を來せる生産能力を如何に措置す可きか是れ本年三月新大統領就任後の政策如何に依るものにして今日之を豫測し難しと雖も、要するに財界的に恢復せざる限り生産過剩の結果に陥るは當然の推測なると共に相場の下押又已むを得ざる歸結なるが如し、然れども我國としては既に海外相場に比し著しき下鞘に在る關係上之れ以上低落するの餘地なきを以て海外相場の漸落を俟つて上半期と下半期の交に至らば一般財界の激變なき限り弗々外註商談も開始せらるに至らんかと觀測

する者あり。(中外商業)

●銅界前途

銅價の前途に關し更に大勢より見て其前途は決して樂觀を許さずと云ふものあり、從來銅は内外共に第一の需要を水力電氣の電線及ケーブルとし第二には諸製品原料にして、第三は支那の銅貨向の需要なるが主として需要は一に懸て水力電氣の電線及ケーブルに在りと云はざるべからざるが、今や恐るべき代用品の完成を見るに至り最近米國に於てアルミニウム線を以て完全に銅線の代用を爲さしむる事に成功せり、重量の點りよ見れば著しく軽く且甚だ價格割安なれば銅に代へて重用されんとするに至り斯くて銅は其最大需要者たる水力電氣事業より見限られんとするの悲境に在りと云ふべし、更に之を一般的需要關係より見るも近年に於ける世界銅の平均年産額は内輸に見ても約百萬噸にして之が消費額は事實上八十萬噸位に過ぎず、即ち年々二十萬噸を繰越つゝあり、然も從來各生産者は動もすれば大量生産に依りて經費節減の目的を達せんとするが爲め愈々大量生産を爲すの大體的傾向あり、之れが結果は年と共に滯銅を増大且今日の倫敦銅相場は辛うじて八十磅を維持せるが若し英、米爲替の恢復を見んか倫敦相場は更に下落を見るべく之れ亦銅の先行き悲觀の十分なる材料なり、要するに現代の世界は漸く銅の全盛時代を過ぎ去らんとするかの觀ありと。

●瑞西製電磁石購入

八幡製鐵所研究所では同所製

出鋼材の鑛質を研究し之れを改良するため目下非常な努力を以て研究中であるが、今回同所美濃技師は試験に要する電磁石の購入に着手し、磁力の強度世界一と稱へられた瑞西製磁力四萬五千ゴース、價額一萬五千五百圓のものを購入する事としたが、同磁石は世界中亞米利加のビウローフズスタンダード會社に唯一個あるのみて我國に來るは世界で二番目である、其磁石到着の上は醫學上にも何等かの面白い實驗に應用され、鋼鐵研究場として東洋一の設備を有する權威ある研究所となる由で、製鐵所は製鐵上一大改革をなす事を得る由。

●白國製鐵投賣

倫敦一月二十日發電、二十二日市内某所入電に依れば、白耳義筋の製鐵投賣品は依然英國市場を脅威し居れり、尤も白國製鐵棒は蘇格蘭製品生産費より遙に低率なるがためなりと云ふ。